



郵便  
**報知新聞**  
 第六百四十三号

師登縣下井上村藤井何某、物領息子  
 太平が今年一月昔ひ、花痴の同將下吉  
 福出屋敷小が娘あて美津江と云昔星は  
 年猶廿二三月廿七日夫と共ふ芝居見  
 物み往き所一運のつれ昔契し清  
 五郎と云めのと落合一清五郎に杯さ  
 兄の跡先を代夫定る美津江が側へ  
 近付て何ういゆじきをぶらりけしと  
 太平見とめ強く妻と叱りてさうく  
 伴ひ家まうけしが猶腹のけ翌朝仲  
 人を呼て談判中二階の物音があつた  
 忍何妻やんと上りるに情る美  
 津江の面目多くや思ひんかく極め  
 立派は自害しと果さる

松林伯圓誌



錦昌堂

工銀  
 七

